

## 現地での取り組み

### 畑地湛水で環境保全型農業へ

田ではなく畑に水を張る。しかも、“作物の植えられていない時期に水を張る”といういぶかしく思われるかも知れません。ところが、これには土壤の改良、有害線虫の防除、雑草防除といった合理的な理由があるので。戦後まもなくの頃、冬の間のかんがい用水の余り水などを利用して畑地湛水が行なわれ、「水入畑」とも呼ばれていました。環境保全型農業への関心が高まる中で、近年、畑地湛水の再評価が進んでおります。

九州沖縄農業研究センターは鹿児島県農業開発総合センターと一緒に畑地湛水の研究に取り組み、夏の休閑期の畑に水を一定期間張ることが有害線虫の防除だけでなく難防除雑草(ハリビユ)の防除並びに後作物のリン酸肥料の大幅減肥にもつながるなど、複合的な効果を持つ営農技術であることを明らかにしてきました。この成果を取りまとめ「湛水防除とリン酸減肥を組み合わせた低コスト秋冬ニンジン栽培マニュアル」として今年の3月に刊行しました。

去る7月には、行政担当者や営農指導者に広く参加を呼びかけ、畑地かんがい用水の多目的利用を推進している笠野原土地改良区において湛水研究会を開催しました。研究会では、マニュアル記載の内容説明に加え、畑地かんがいの水利用の歴史や畑に水を張るための農業機械を利用した具体的な方法の説明、宮崎県の綾川畑地かんがい事業地区において再開された畑地湛水が関係機関・団体の一体となった取組により平成24年度には140 haまで広がった先行事例などの紹介がありました。参加者の積極的な討論から畑地湛水のメリットを活かすには、湛水作業をより簡便・能率的に行うための知識や経験を集積し、統合化することが必要であるとの結論にいたりました。

今後は水稻の直播栽培で開発が進む圃場の新しい水管理技術も積極的に取り入れるなど、畑地湛水の作業性を向上させながら、笠野原地域や綾川地域での畑地湛水の普及を後押ししてゆきたいと考えています。

【生産環境研究領域 荒川 祐介】



写真1 湛水防除とリン酸減肥を組み合わせた低コスト秋冬ニンジン栽培マニュアル  
(左:表紙 右:記載内容の一部)



写真2 湛水研究会の様子(平成26年7月30日 於:笠野原土地改良区)  
左:室内で行われた研究会、右:畑地湛水圃場での説明